

Sesshu 雪舟没後 500年 Master of Ink and Brush: 500th Anniversary

近年、雪舟の赤浜誕生地説と本姓藤氏（＝藤原氏）を強力に後押しし、出自をうかがわせる史料が発見されました。それが重玄寺（井原市芳井町）の開山千畝周竹（1379～1458年）の語録『也足外集』です。重玄寺は臨済宗仏通寺派の禅寺で、嘉吉元年（1441年）の創建とされるものの、それ以前から重玄寺（庵）は存在し、千畝が住していたようです。千畝は仏通寺（愚中）派を開いた愚中周及の高弟で、仏通寺（三原市）の住持を務めるなど、同派の興隆に尽くした禅僧でした。

語録には「眞證覚本菴主三十三回忌香語」が含まれています。これは、

宝徳元年（1449年）、徳本庵で行われた眞證覚本という人物の三十三回忌のため千畝が作った香語です。法要の功德主は、眞證覚本の子で「備之中州赤濱保居住奉三寶弟子藤氏重定」であるというものです。当時、赤浜に住む藤氏といえは、雪舟を連想するのが自然です。赤浜がそれ

ほど多くの人口を養える土地とは考えにくい以上、眞證覚本と息子の藤氏重定が雪舟の一族である可能性はきわめて高いはずですが、雪舟はこの法要の際には30歳になっていました。また、この香語には眞證覚本が愚中周及に参

也足外集にみる雪舟

じて備中に徳本庵を開基していたことが記されています。赤浜に住む息子が法要を行ったとすれば、やはり赤浜に徳本庵が在ったのでしょうか。しかも、その法要には本山仏通寺の住持がはる

ばる徳本庵を訪れています。仏通寺の例から推測すると、末寺や庵はいずれも国人（在地領主）クラスの檀那によって開基され、彼らの氏寺的存在として機能しています。徳本庵も同様に赤浜の藤氏によって維持されていたのでしょうか。

こうした禅庵を建立し、「安置禅侶（禅僧を置く）」できる程度の経済力を有した藤氏は赤浜きつての有力者と考えられ、藤氏重定を長とする一族に生まれ、禅僧としての未来を歩んでいったものと思われま



千畝周竹頂相 【室町時代 重玄寺蔵】

〈絵の上部にある賛文の大意〉
竹篋をもち曲録に座していれば、立派な僧侶に見える。しかし、この怪しく疑わしい姿を見た人はきっと笑うだろう。忍禅（僧名。道号は千林。備陽の人）よ、私のために弁解してくれ。画師をだまして取りつくろっているということ。忍禅は師である私の幻影でしかない姿を写させて賛文を求め、それを私常喜（千畝の庵号）千畝は承知したのである。

文／岡山県立美術館学芸課長 守安 敬

2006 JULY
平成18年7月1日 No.16

「総社」
Soja City
2006
7
No.16

平成18年7月1日発行（毎月1回1日発行）

発行／総社市役所 編集／企画課秘書広報係
〒710-1002 岡山県総社市中央一丁目1番1号

電話 0866 (0)804 FAX 0866 (0)9479
Eメール kikaku@city.soja.okayama.jp

【輝いている人】 7p
出井紗希子さん

【まちの話題】 10p
環境を考える集い

水防訓練 バイオディーゼル燃料ほか

【市政トピックス】 4・5p
7月1日から一般家庭ごみ収集の有料化が完全実施となります
かわいいイラストでPR
妊産婦に気遣いを
総合計画への意見を募集

【地産地食】 21p
小麦

●シリーズ● 8p

「やっぱりええなあ。総社のまち」「介護保険」「健康アドバイス」「市長室から」

ミニ特集 6p
2006 なつまつり

お知らせ 12～18p
ボイス 19p
人権 20p

特集◎企業誘致 2p

紀文食品 井尻野に工場建設